

授業基本情報

授業科目名／Course title
図書館情報サービス演習
教員名／Instructor
原田 智子
期間／Semester
2017年度／Academic Year 秋学期 前半／Second Semester
開講曜限／Class period
火/Tue 18:20～21:00

授業概要情報

副題／Subtitle
データベース検索のスキルを磨く
目的・内容／Course Objectives
ウェブ情報資源を中心に情報検索スキルを学習し、多様な利用者に対するレファレンスサービスに対応できる能力を身につけることを目的とする。多様なメディアのレファレンスツールの活用方法および評価、情報検索の仕組み、検索エンジン、ウェブ情報資源の特徴と検索方法を学習する。レファレンスツールの評価方法についても学習する。
到達目標／Course Goals
1. 最適な情報資源を活用して調査・回答することができる。 2. 各種データベースに対する情報検索スキルが身につく。 3. レファレンスツールの評価やウェブ情報資源の評価ができる。 4. 発信型レファレンスサービスの構築と評価ができる。
授業スケジュール／Class schedule
1. オリエンテーション、レファレンスサービスに対する基本的姿勢 2. 情報検索の理論 3. 情報検索の評価 4. 情報資源やデータベースの種類と特徴 5. 情報資源へのアクセス: 図書(1) 6. 情報資源へのアクセス: 図書(2) 7. 情報資源へのアクセス: 雑誌・雑誌論文(1) 8. 情報資源へのアクセス: 雑誌・雑誌論文(2) 9. 情報資源へのアクセス: 新聞・歴史・地理 10. 情報資源へのアクセス: 人物・団体・統計 11. 情報資源へのアクセス: 法令・判例 12. 情報資源へのアクセス: 特許・商標 13. ～14. レファレンスツールの評価 15. レファレンスツールの評価に関する口頭発表 16. 発表内容に関するディスカッションと相互評価
準備学習／Preparation
課題が授業中に終わらない場合は、提出期限までに完成させておくこと。
指導方法／Teaching methods
1. 具体的な演習を通じて課題解決方法を指導する。 2. レファレンスツールの評価基準を確認する。 3. 情報発信型ツールの作成は各自で行うが、評価は相互評価する。
成績評価の方法／Evaluation
授業の課題と提出物(70%)、口頭発表の結果(30%)。ただし、口頭発表を行わない場合は最終評価をしない。
テキスト／Textbooks
原田智子編著『改訂情報サービス演習』 樹村房 2016年 2160円 ISBN978-4-88367-267-7
参考書／Referencebooks
長澤雅男・石黒祐子著『レファレンスブックス: 選びかた・使いかた(新訂版)』 日本図書館協会 2013年 1470円 ISBN978-4-8204-1222-9

授業基本情報

授業科目名／Course title
最新図書館事情
教員名／Instructor
原田 智子
期間／Semester
2017年度／Academic Year 秋学期 後半／Second Semester
開講曜限／Class period
火/Tue 18:20～21:00

授業概要情報

副題／Subtitle
日本および海外の図書館を現状を探る
目的・内容／Course Objectives
日本および海外の興味ある図書館を取り上げ、その図書館における情報サービス、利用者教育、電子書籍などデジタル化への対応など、最新の取り組みを中心に事例を取り上げ、具体的な事例を研究する。
到達目標／Course Goals
1. それぞれの図書館における特徴ある最新事情を事例を通じて理解する。 2. 自分が働く図書館あるいはよく利用する図書館との相違点や問題点を取り上げて事例紹介された図書館との比較を行う。 3. 自分が働く図書館あるいはよく利用する図書館への改善提案を作成できる。
授業スケジュール／Class schedule
1. オリエンテーション、特徴ある図書館事例を探す 2. 特徴ある図書館事例収集 3～4. 収集した図書館事例を研究する(1)国内 5～6. 国内図書館のサービスの特徴 7. 事例発表 8. 国内図書館の事例研究のまとめ 9～10. 収集した図書館事例を研究する(2)海外 11～12. 海外図書館のサービスの特徴 13. 事例発表 14. 海外図書館の事例研究のまとめ 15. 自分が働く図書館あるいはよく利用する図書館との比較 16. まとめ
準備学習／Preparation
図書館やウェブ情報資源を活用して、事例研究対象の図書館をできるだけ多く収集する。
指導方法／Teaching methods
1. グループによる参加型学習を行う。 2. 最新の取り組みを中心に事例の調査・研究を行えるようにする。 3. 自分が働く図書館あるいはよく利用する図書館と比較し、今後の改善等を検討できるようにする。
成績評価の方法／Evaluation
授業中の発表と提出物(50%)、期末レポート(50%)
テキスト／Textbooks
必要に応じて資料を配布する。
参考書／Referencebooks
授業内で紹介する。

授業基本情報

授業科目名／Course title
図書館総合演習
教員名／Instructor
長塚 隆、原田 智子、中馬 雅宏
期間／Semester
2017年度／Academic Year 秋学期 前半／Second Semester
開講曜限／Class period
土/Sat 13:00～18:30

授業概要情報

副題／Subtitle
課題解決型図書館の役割
目的・内容／Course Objectives
現代社会は個人を取り巻く環境の変化が著しく、競争社会や雇用のスタイルも多様化している。また情報格差の問題など、情報を取り巻くさまざまな課題が個人にもたらされている。そのような社会環境に呼応する新しい図書館のあるべき姿や役割について、これからの図書館サービスの柱とされる課題解決型図書館の事例研究を通じて理解する。
到達目標／Course Goals
1. 現代の図書館サービスの現状を把握するための事例調査が行える。 2. 図書館を取り巻く環境を理解し、課題解決型の新しいサービスとは何かを理解できる。 3. これからの問題解決型図書館の新しいモデル案を作成できる。
授業スケジュール／Class schedule
1. オリエンテーション、現代社会の特徴 2. 現代図書館の特徴 3～6. 課題解決型支援の事例研究(1) 7～10. 課題解決型支援の事例研究(2) 11～14. 課題解決型支援の事例研究(3) 15. 事例研究成果の発表 16. 試験
事例研究で取り上げるテーマ例
・公共図書館における課題解決型支援には、①ビジネス支援、②行政情報提供、③医療健康情報提供、④法律情報提供、⑤子育て支援・学校教育支援、⑥地域情報提供・地域文化発信などがある。 ・大学図書館における課題解決型支援には、①学生に対するレポート作成のための情報収集からレポートの書き方指導、②教員への授業や講義の情報提供、③ゼミ指導への協力、④学生の自律的学習支援、⑤図書館におけるコラボレーションエリアの充実などがある。 ・学校図書館における課題解決型支援には、①読書指導、②教員の総合学習への支援、③児童・生徒の調べ方支援、④図書館利用方法の支援、⑤図書館におけるコラボレーションエリアの充実などがある。
準備学習／Preparation
事例研究で取り上げるテーマについての情報収集を行ってきてください。
指導方法／Teaching methods
1. 事例研究のテーマを決めてグループ学習を中心に進める。 2. 受講生一人ひとりが発言しやすいように指導する。 3. 事例研究で学習したことが役立つように、相互評価を行う。
成績評価の方法／Evaluation
授業への参画度(20%)、口頭発表の結果(30%)、試験(50%)
テキスト／Textbooks
必要に応じて資料を配布する。
参考書／Referencebooks
授業内で紹介する。

授業基本情報

授業科目名／Course title
図書館運営と著作権演習
教員名／Instructor
長塚 隆
期間／Semester
2017年度／Academic Year 秋学期 前半／Second Semester
開講曜限／Class period
木/Thu 18:20～21:00

授業概要情報

副題／Subtitle
目的・内容／Course Objectives
現在、図書館は大きな時代の変化の中で、その経営のあり方に関心が高まっている。競争社会や雇用のスタイルも多様化している。また情報格差の問題など、情報を取り巻くさまざまな課題が個人にもたらされている。そのような社会環境に呼応する新しい図書館のあるべき姿や役割について、これからの図書館サービスの柱とされる課題解決型図書館の事例研究を通じて理解する。
到達目標／Course Goals
1. 図書館における制度と経営についての理解を深め評価ができる。 2. 図書館法について図書館経営と関連付けて理解ができる。 3. 図書館で扱うデジタル情報の著作権についての理解が深まる。 4. 具体的な課題を通じて、著作権法への理解が深まる。
授業スケジュール／Class schedule
1. 図書館制度の概観 2. 図書館における制度と経営 3. 図書館法 4. 図書館に関連する法規 5. 図書館の公共性と図書館経営 6～8. 図書館のサービスと経営に関する法規 9. 著作権法の概要 10～11. デジタル情報と著作権 12～15. 著作権と図書館 16. まとめ
準備学習／Preparation
課題が授業中に終わらない場合は、提出期限までに完成させておくこと。
指導方法／Teaching methods
1. 各章の課題を通じて、理解を深めるように指導する。 2. 課題の発表を通じて、伝達能力を向上させる。 3. 図書館の業務と関連付けて、図書館法や著作権法についての理解を深めるように指導する。
成績評価の方法／Evaluation
授業の課題と提出物(70%)、口頭発表の結果(30%)。ただし、口頭発表を行わない場合は最終評価をしない。
テキスト／Textbooks
自作の電子テキストを使用する。
参考書／Referencebooks
黒澤節男著『Q&Aで学ぶ図書館の著作権基礎知識』第3版 太田出版 2011年 2800円 ISBN978-4-7783-1244-2 永田治樹編著『図書館経営論』日本図書館協会 2011年 1200円 ISBN978-4-8204-1102-4

授業基本情報

授業科目名／Course title
図書館情報技術特論
教員名／Instructor
長塚 隆
期間／Semester
2017年度／Academic Year 秋学期 後半／Second Semester
開講曜限／Class period
木/Thu 18:20～21:00

授業概要情報

副題／Subtitle
図書館業務に必要な情報技術のさまざまな活用事例を通じて理解を深める。
目的・内容／Course Objectives
コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。
到達目標／Course Goals
1. コンピュータの利用技術について理解し、活用方法を考えることができるようになる。 2. 情報技術と社会の関わりについての理解を深め、自分で活用方法について考えられるようになる。 3. 図書館業務への情報技術の適用例を学び、自分で応用例が考えられるようになる。 4. 電子資料の管理技術の基礎を理解できるようになる。 5. デジタルアーカイブについての基礎知識が理解できるようになる。
授業スケジュール／Class schedule
1. コンピュータとネットワークの発展 2～3. 情報技術と社会 4～5. コンピュータとネットワークの基礎概念 6. 図書館における情報技術活用 7～8. 図書館業務システム 9～10. データベースの仕組み 11. 検索エンジンの仕組み 12. 電子資料の管理技術 13. コンピュータシステムの管理 14. デジタルアーカイブ 15. 最新の情報技術と図書館 16. まとめ
準備学習／Preparation
課題が授業中に終わらない場合は、提出期限までに完成させておくこと。
指導方法／Teaching methods
1. 各章の課題を通じて、理解を深めるように指導する。 2. 課題の発表を通じて、伝達能力を向上させる。 3. 図書館の業務と関連付けて、情報技術の利用についての理解を深めるように指導する。
成績評価の方法／Evaluation
授業の課題と提出物(70%)、口頭発表の結果(30%)。ただし、口頭発表を行わない場合は最終評価をしない。
テキスト／Textbooks
自作の電子テキストを使用する。
参考書／Referencebooks
細野 公男,長塚 隆 (著)『デジタル環境と図書館の未来: これからの図書館に求められるもの』日外アソシエーツ 2016年 2700円 ISBN978-4-8169-2589-4

授業基本情報

授業科目名／Course title
図書館評価演習
教員名／Instructor
角田 裕之
期間／Semester
2017年度／Academic Year 秋学期 後半／Second Semester
開講曜限／Class period
土/Saturday 13:00～18:30

授業概要情報

副題／Subtitle
目的・内容／Course Objectives
図書館は常に利用者から評価されている。この評価を高めることは図書館員にとって、重要なテーマである。ところが、評価内容は評価者によって大いに異なる。よって、理論的に図書館評価を研究することが必須である。本授業では、図書館の経営資源(インプット)やサービス(アウトプット)から能力(パフォーマンス)を測定する各種指標を開発する。これらの指標を用いて効率的にパフォーマンスを高める方法を研究する。
到達目標／Course Goals
・図書館のアウトプットを計量して数値化できる。 ・適切な指標から図書館のパフォーマンスを評価できる。
授業スケジュール／Class schedule
1. オリエンテーション 図書館評価演習でまなぶこと 2. 図書館の経営資源(インプット)の種類 3. 図書館のサービス(アウトプット)の種類 4. 図書館の能力(パフォーマンス)指標の種類 5. インプット調査項目の選定 6. インプット調査の実践 7. アウトプット調査項目の選定 8. アウトプット調査の実践 9. パフォーマンス指標の選定 10. パフォーマンス指標の測定 11. 効率的なパフォーマンスのための改善方法の検討(1) 12. 効率的なパフォーマンスのための改善方法の検討(2) 13. 成果発表資料作成(1) 14. 成果発表資料作成(2) 15. 成果発表と検討会(1) 16. 成果発表と検討会(2)
準備学習／Preparation
実際の図書館の経営資源やサービスを使った演習なので、データ調査・入力して授業に臨むこと。
指導方法／Teaching methods
1. 実際の図書館の各種データを使って指導する。 2. 数値データの統計処理を指導する。 3. 成果発表の方法を指導する。
成績評価の方法／Evaluation
成果発表資料(50%)、成果発表検討会の内容(50%)
テキスト／Textbooks
必要に応じて指示する。
参考書／Referencebooks
図書館の経営評価：パフォーマンス指標による新たな図書館評価の可能性 / 日本図書館情報学会研究委員会編 勉誠出版 2003.11